

令和 5 年 6 月 5 日現在

機関番号：34316

研究種目：若手研究

研究期間：2021～2022

課題番号：21K12858

研究課題名（和文）百鬼夜行譚の形成と変容に関する研究

研究課題名（英文）A Study on the Formation and Transformation of Hyakkiyago-tan

研究代表者

崔 鵬偉（CUI, PENGWEI）

龍谷大学・公私立大学の部局等・研究員

研究者番号：20875786

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、百鬼夜行譚の新しい事例を新たに四つ確認することができた。また、百鬼夜行日の起源について、具注暦に「忌夜行」が記されるようになったきっかけを探る手がかりとして、宣明暦の暦注の依拠資料とされる『大唐陰陽書』の現存諸本を調査し、百鬼夜行日に関する従来の解釈において「節切り」という前提が殆ど無視されてきたことを指摘したうえ、その理由と背景を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、先行研究を踏まえ、文献資料を博搜した上で百鬼夜行譚の事例を新たに確認することができた。これによって、より精緻な研究を目指すことが可能になった。

また、百鬼夜行日に関する記録は、文献上最も早く現れたにもかかわらず、関連する研究は皆無に近い。本研究において、百鬼夜行日の関連記録を整理し考察することによって、百鬼夜行を正確に定義し直すことができるのみならず、この研究の空白を補うことにもなる。

研究成果の概要（英文）：In this study, I was able to identify four new cases of "hyakkiyago-tan". In addition, as a clue to the origins of the "hyakkiyago-bi" in the "guchureki", I examined the extant editions of the "Datang Yinyang Shu," which is said to be the source of the "rekichu" for the "Senmyo-reki", and pointed out that "setsugiri" has been almost completely ignored in the traditional interpretation of the "hyakkiyago-bi", and clarified the reason and background for this neglect.

研究分野：人文学

キーワード：百鬼夜行 忌夜行日 具注暦 大唐陰陽書 本地垂迹

1. 研究開始当初の背景

百鬼夜行に関する文献記録は、概ね三種類に分類できると考える。最初に確認できるものは、陰陽道において日時吉凶を示す暦注の日取りを記録したものの、いわゆる百鬼夜行日(「忌夜行日」とも)の記録である。次に挙げられるのは、物語や説話などに登場する、夜中に貴人や修行者ないし一般庶民が恐ろしい異形異類の集団と遭遇するという伝承である。最後に世に現れたのは、百鬼夜行絵巻と称される一群の絵巻で、ほとんど詞書を持たない絵だけのものである。前の二種類はすでに平安時代から確認できるのに対して、絵巻の出現は室町時代以降になる。

しかし、研究の進展具合は、記録の出現年代順とはまったく逆の展開となっている。絵巻の研究が最も盛んに行われており、説話はそれに次ぐもので、百鬼夜行が出現する日取りなど思想背景の研究はごく僅かである。

『口遊』や『拾芥抄』などに収録される百鬼夜行日については、各書物の記録に相違がみられるにも関わらず、現在の研究者はそれを無視することが多い。現存する具注暦にみる暦注と照らし合わせながら、古辞書に記し残された百鬼夜行日の日取りは、果たして当時の情報を正確にとどめているのかどうかを検証する必要があると考える。さらに、異なる書物における記録には変容が生じる。その背景や原因についても、やはり考える必要がある。

一方、百鬼夜行説話の研究はある程度進んでいるが、題材からみれば有名な話(例えば、藤原師輔や藤原常行にまつわる伝承)ばかりであり、時代からみれば院政期説話集の所収話を中心に、偏っていると言わざるをえない。その理由として、これらの話はより広く流布し、伝承されたことが考えられる。しかしそれだけでは、平安時代から近世に至るまで伝承されつづけてきた百鬼夜行譚の思想的な意味を解明するにあたり、不十分である。

百鬼夜行絵巻については、ほとんどの研究は、絵巻の構図やそこに描かれた妖怪の図様などの面から、諸伝本の成立順序あるいは相互間の模写関係を考察するものである。しかしながら、百鬼夜行絵巻の大半は、詞書がなく主題が不明瞭なものである。百鬼夜行絵巻は百鬼夜行譚のパロディに過ぎないとも言われるが、両者が結び付けられた理由はどこにあるのか、追求すべき課題である。

2. 研究の目的

本研究は、主に日本古代中世の文献にみる百鬼夜行に関する記録と物語、すなわち百鬼夜行譚を研究対象とする。その目的は、百鬼夜行譚に登場する鬼のイメージはもとより、それと遭遇した人間がどのような対応をしたのかを分析し、日本思想史の上に正しく位置付けることである。百鬼夜行に対する遭遇者の反応から、当時において百鬼夜行がどのように捉えられていたのか、またどのような信仰があったのかを窺うことができるであろう。これらの検証によって、百鬼夜行の概念規定を行い、それがどのように語られ、享受されていたのかを明らかにしたい。

3. 研究の方法

本研究では、平安時代から室町時代までの文献資料(必要に応じて江戸時代の史料も扱う)に視野を広げ、百鬼夜行とそれに遭遇した人間がどのような対応をしたのか、また何故そのように行動したのかという、従来の研究とやや異なる視座から、百鬼夜行譚の思想的・文学的意味を考究した。

その突破口として、『今昔物語集』所収話に含まれる要素を詳細に分析しながら、同じ要素がほかの百鬼夜行譚においてどのように用いられているのかを合わせて考えた。主に、<1>百鬼夜行日(「忌夜行」)の起源、<2>百鬼夜行譚に登場する陰陽師のイメージ、<3>本地垂迹説を唱える文献資料にみられる百鬼夜行の原型という三つの課題に取り組んだ。

論証にあたり、『今昔物語集』など文字資料の検討のみならず、『融通念仏縁起』など絵巻資料をも考察の対象とした。さらに、百鬼夜行絵巻が百鬼夜行譚から直接に生まれたものではないが、両者を結びつけた要素はどこにあるのかも検討した。

4. 研究成果

(1)百鬼夜行譚の新しい事例、特に本地垂迹説を唱える文献資料にみられる百鬼夜行譚のうち、『八幡宮巡拝記』第三十一話の類話として、新たに『江談抄』巻六第八話「隴山雲暗、李將軍之在家、瀨水浪閑、蔡征虜之未仕 清慎公辞大將状 文時」、『十訓抄』十ノ七「名句により病を免れる」、『古今著聞集』第百十七話「鬼神、菅原文時の家を拝する事」という三つの事例を確認することができた。また、『太平記』巻二十三「伊予国より靈剣注進の事」も百鬼夜行譚と看做すことができると判明した。百鬼夜行研究に新たな研究材料を提供した。

(2)百鬼夜行日の起源について、具注暦に「忌夜行」が記されるようになったきっかけを探る手がかりとして、宣明暦の暦注の依拠資料とされる『大唐陰陽書』の現存諸本を調査し、2022年11月13日(日)早稲田大学総合研究機構日本古典籍研究所・スーパーグローバル大学創成支援事業 国際日本学拠点・北京大学人文学部・北京大学中国語言文学系主催、中日古典学ワークショップにおいて、「百鬼夜行日解釈の再検討 『拾芥抄』を手がかりに」と題する口頭発表

を行った。百鬼夜行日に関する従来解釈において「節切り」という前提が殆ど無視されてきたことを指摘したうえ、その理由と背景を明らかにした。こうした考察によって、百鬼夜行を正確に定義し直すことができるのみならず、この研究の空白を補うことにもなる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 崔鵬偉
2. 発表標題 百鬼夜行日解釈の再検討 『拾芥抄』を手がかりに
3. 学会等名 第三回中日古典学ワークショップ（国際学会）
4. 発表年 2022年～2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------